



©Naruki Oshima, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

大島成己 Naruki Oshima “Figures”

会期：2015年11月7日（土） - 12月2日（水）

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日

オープニングレセプション：11月7日（土）18:30 - 20:30

トークイベント：11月7日（土）17:00 - 18:30

※大島成己×タカザワケンジ（写真評論家、ライター）

2015年11月7日（土）より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、大島成己の個展“Figures”を開催いたします。

前作“haptic green”では、焦点距離を変化させて撮影した200枚以上のカットを格子状に繋ぎ合わせ一枚の写真として再構成することで、奇妙な風景を作り上げました。それは、私たちに未知の視覚体験をもたらすとともに、視覚によって得るイメージ（=印象）というものがいかに曖昧であるかを知らしめ、人が目の前の対象を知覚する際の認識行動に揺さぶりをかけることに成功しました。

本展が初公開となる新作“Figures”では、「風景」から「人体」へとテーマを変え、視覚認識の問題から他者に対する知覚認識の問題へとコンセプトをより広げます。

私たちは通常、他者を認識するために、容姿や表情、言語だけでなく、社会的属性やスキル、関係性の度合い、また自らの価値観や過去の経験に基づいた主観的な推論等を統合して印象形成を行います。しかし大島は、こうした統合的判断による他者認識によって、却ってその隙間からぼろぼろと「重要な何か」が滴り落ちているのではないかと感じてきました。“Figures”は、こうしたものを掬い上げ、そこにしか見ることの出来ない存在を現そうとする試みです。

この機会に是非ともご覧ください。

■作家コメント

新しいシリーズ作品は人体をモチーフとしている。これまで風景、静物を主なモチーフとして撮影してきたが、人体はほとんど扱ったことがなかった。1990年から数年間、写真製版シルクスクリーンで黒い人影のイメージを何点か制作したものの、誰かを特定できない黒いインクの皮膜として人影を表すだけだった。人体というモチーフは写される人の社会的な背景、文脈が強く表れてくるので、そうした意味文脈を相対化した果てで表現を開始した僕にとっては、人体を扱うのはとても厄介で、ずっと避けてきたモチーフだった。

しかし、今回、あえて人体を選んでみたいと思うようになったのは、人体固有の触覚的な塊への興味とともに、haptic greenシリーズで見いだした技法の可能性を実験的に展開してみたいと考えたからだった。この技法はクローズアップした無数のショットをステイティングで統合し、物の部分・細部の関係を取り結んで事後的に全体を表すことができる。そこで現れてくるのは、求心性の強い全体がまず措定されて部分がそこに隷属する関係でなく、様々な部分がまず主張し、それらが関係を取り結んで全体となる関係だ。つまり部分と全体が拮抗する緊張関係に対象を持ち込むことができる。ここに従来の写真表現とは別の新しい可能性があると考えている。

今回、この技法を通じて、部分と全体が拮抗する関係において人体の触覚的表面を表現したい。それは人を記号的に理解、解釈するのではなく、言葉で現しがたい触覚性において捉え直すものだ。と言っても、その触覚性を抽象的な、あるいはアノニマスな存在として完結させるのではなく、そこにその人の固有性が浮かび上がるようにしていきたい。その固有性とは社会的な意味、ステータスから離れたところでのその人自体の存在性で、それを捉えることにおいてしか、人体という厄介なモチーフを扱う可能性は無いのではと思っている。

2015年10月 大島成己

**■オープニングレセプション**

日時：2015年11月7日（土）18:30-20:30

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

■トークイベント

日時：2015年11月7日（土）17:00-18:30

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

登壇者：大島成己 × タカザワケンジ

※事前申込制、参加費：無料

タカザワケンジ（写真評論家、ライター）

1968年群馬県生まれ。97年からフリー。『アサヒカメラ』『写真画報』『芸術新潮』『IMA』などの雑誌に評論、インタビュー、ルポを寄稿。ほかに、ヴァル・ウィリアムス著『Study of PHOTO -名作が生まれるとき』（ピー・エヌ・エヌ新社）日本語版監修、富谷昌子写真集『津軽』（HAKKODA）編集・解説、渡辺兼人写真集『既視の街』（AG+ Gallery・東京総合写真専門学校出版局）など。東京造形大学非常勤講師。

【お申し込み方法】

件名「トークイベント参加」、本文に、参加人数、お名前、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jp までメールでお申し込みください。

*定員（25名）になり次第、受付を終了いたします。

*ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。

■作家プロフィール**大島成己 Naruki Oshima**

1963 大阪府に生まれる

2000 アーティスト・イン・レジデンス「Art-Ex」にてドイツ・デュッセルドルフ市招待アーティスト

2001-02 文化庁在外研修員派遣芸術家プログラム

2001-03 ドイツ・デュッセルドルフ芸術アカデミー、トーマス・ルフ（Thomas Ruff）教室にて研究

2010 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、博士（美術）取得

現在 京都市在住

【主な個展】

- 2014 「大島成己出版記念展」Sunday（東京）
「大島成己個展」新苑画廊（台北/台湾）
- 2013 「haptic green」NextLevel gallerie（パリ/フランス）
「haptic green／緑の触覚」Gallery Nomart（大阪）
- 2011 「haptic green／緑の触覚」Gallery Nomart（大阪）
- 2009 「Reflections」Gallery Nomart（大阪）
- 2008 「Reflections」Gallery White Room Tokyo（東京）
- 2006 「Reflections」Galerie Heinz Martin Weigand（カールスルーエ/ドイツ）
「Reflections-像としての色彩」Nomart Editions Project space（大阪）
- 2004 「Reflections」Nomart Editions Project space（大阪）
「Reflections」ギャラリーTEZZ（東京）
「夜の色」（ビデオ・インスタレーション）信濃橋画廊（大阪）
- 2002 「Reflections」Nomart Editions Project space（大阪）
「Contemporary Art From Japan to Finland 2002」フィンランド美術家協会 Gallery G（ヘルシンキ/フィンランド）
- 2001 「大島成己個展」信濃橋画廊（大阪）
- 2000 「大島成己個展」関西ドイツ文化センター（大阪）
ドイツにおける日本年「Naruki Oshima, Fotograph」クンストラウム・デュッセルドルフ（デュッセルドルフ/ドイツ）
- 1999 「大島成己個展」信濃橋画廊（大阪）
「大島成己個展」複眼ギャラリー（大阪）
- 1998 「大島成己個展」番画廊（大阪）
- 1996 「写真的色彩について」シティギャラリーI.M.（大阪）
- 1994 「大島成己個展」ギャラリービュウ（大阪）
「大島成己個展」シティギャラリー（兵庫）
- 1993 「イトーキアートプログラム vol. 8-大島成己」イトーキクリスタルホール（大阪）
- 1992 「大島成己個展」シティギャラリー（兵庫）
- 1991 「大島成己個展」インタフォームアトリエ（大阪）
- 1990 「大島成己個展」シティギャラリー（神戸）
- 1987 「大島成己個展」オンギャラリー（大阪）
- 1986 「大島成己個展」信濃橋画廊（大阪）



【主なグループ展】

- 2015 「Festival Phot' Aix 2015」 Aix en Provence (プロヴァンス/フランス)
- 2013 「新収蔵展：信濃橋画廊コレクション」 兵庫県美術館 (兵庫)
「Print Art Triennale in Kyoto」 京都市美術館 (京都)
- 2012 「PEKE展：大島成己×梅原悟」 Gallery Nomart (大阪)
「写真分離派 『写真+』」 中京大学 Cスクエア (愛知)
「Refining The Multiple Japanese Printmaking」 テネシー大学、他 (アメリカ合衆国)
- 2011 「上海国際版画展-viewing city」 上海虹代現代美術館 (上海/中華人民共和国)
- 2010 「台湾国際版画展」 国立台湾師範大学 (台北/台湾)
「あいちアートの森：堀川プロジェクト」 (文化庁) 東陽倉庫テナントビル (愛知)
- 2008 「パリフォト2008・ジャパン・ステートメント部門」 カラーセル・デュ・ルーヴル (パリ/フランス)
- 2007 「Appearance: 写真表現と現代空間の深層」 (大林組 TNprobe 企画) ヒルサイドテラス&フォーラム (東京)
- 2006 「現代日本の写真、風景の記憶／記憶の風景」 国立国際美術館 (大阪)
- 2005 文化庁「DOMANI 明日 2005」 損保ジャパン東郷青児美術館 (東京)
- 2004 「版の記憶／現在／未来」 東京芸術大学美術館陳列館 (東京)
「第9回ヴェネチアビエンナーレ国際建築展-写真部門」 イタリア館、及びアルセナル(ヴェネチア/イタリア)
- 2003 「Mobility, Weil Arets+Naruki Oshima」 Nomart Editions Project space (大阪)
「Art Court Frontier 2003」 アートコートギャラリー (大阪)
「TAMA VIVANT 2003—とらえられたかたち」 多摩美術大学 (東京)、弥右衛門画廊 (京都)
「City Scape」 ギャラリーハイツ・マーティン・ヴァイグンド (カールスルーエ/ドイツ)
「第一回ロッテルダム国際建築ビエンナーレ」 (ロッテルダム/オランダ)
- 2002 「トーマス・ルフ教室から...」 ギャラリー・ハウス・シュナイダー (カールスルーエ/ドイツ)
- 2000 「今村源-三脇康生-大島成己」 Nomart Editions Project space (大阪)
「大島成己、田中栄子」 名古屋芸術大学アートデザインセンター (愛知)
- 1999 「時代の表情-反表情、日本の版画 1945-1999」 町田市立国際版画美術館 (東京)
- 1997 芸術祭典—京—「思い出のあした」 京都市美術館 (京都)
- 1994 「光と影-うつろいの詩学」 広島市現代美術館 (広島)
「現代の版画 '94」 渋谷区立松涛美術館 (東京)
- 1993 TOKYO まちだ国際版画展 買上賞町田市立国際版画美術館 (東京)
- 1992 アートナウ '92 「12人の実践／90年代美術の新地平」 兵庫県立近代美術館 (兵庫)
- 1991 現代美術 '91 「素材はいろいろ」 徳島県立近代美術館 (徳島)
- 1990 シガアニュアル '90 「写真による現代版画」 滋賀県立近代美術館 (滋賀)
- 1989 特別展「版から/版へ-京都1989」 京都市美術館 (京都)
つかしんアニュアル「浮遊体-イメージ空感」 西武美術館つかしんホール (兵庫)

【共同制作】

- 2003 「第一回ロッテルダム国際建築ビエンナーレ展」 (ロッテルダム/オランダ)
オランダ人建築家ヴィール・アレツ(Wiel Arets)とビデオ・インスタレーションを共同制作

【パブリック・コレクション】

京都嵯峨芸術大学 (京都)、徳島県立近代美術館 (徳島)、大阪府立現代美術センター (大阪)、町田市立国際版画美術館 (東京) 同志社大学 (京都)、京都市美術館 (京都)、名古屋芸術大学 (愛知)、ルドライン・ヴェストファーレン学校省 (デュッセルドルフ/ドイツ)、国立国際美術館 (大阪)、株式会社大林組大阪本社 (大阪)、国立台湾師範大学 (台北/台湾)、兵庫県美術館 (兵庫)

【本展に関するお問合せ】 ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ 担当：鈴木孝史

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail]

info@ycassociates.co.jp [website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日